

テーマ：景気動向指数（2017年1月）

発表日：2017年3月8日（水）

～2ヶ月連続の低下も、懸念は不要～

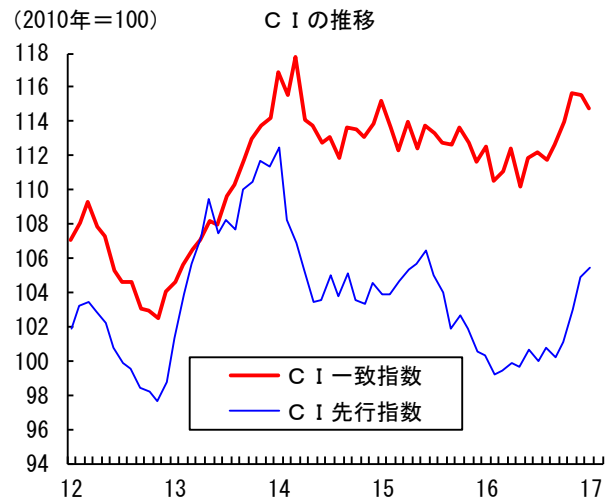
第一生命経済研究所 経済調査部
担当 主席エコノミスト 新家 義貴
TEL:03-5221-4528

○2ヶ月連続の低下も、懸念は不要

内閣府から公表された2017年1月の景気動向指数では、C I一致指数が前月差▲0.7ポイントとなった。16年12月（▲0.1ポイント）に続いて2ヶ月連続の低下である。ただこれは、中華圏の春節のタイミングのずれにより、1月の生産関連指標が下振れたことの影響が大きい。2月には相応のリバウンドが実現する可能性が高く、懸念は不要だろう。景気は着実に改善していると判断して良い。なお、内訳では、耐久消費財出荷指数、生産財出荷指数、鉱工業生産指数など、生産関連指標においてマイナス寄与となっている。前述のとおり、春節の影響が大きいものと思われる。

また、1月のC I先行指数は前月差+0.6ポイントの上昇となった。内訳では、最終需要財在庫率指数や新規求人数がマイナス寄与だったものの、日経商品指数や住宅着工床面積などの押し上げが大きく、全体としてはプラスとなった。C I先行指数はこれで4ヶ月連続の上昇であり、4ヶ月累積の上昇幅は5.3ポイントに達する。C I先行指数の持ち直しの動きが明確になっていることは、景気にとって明るい材料といえるだろう。内外ともに製造業部門での回復が顕著なことや、経済対策効果の顕在化が期待されることもあり、景気は当面好調に推移する可能性が高い。

なお、内閣府によるC I一致指数の基調判断は「改善」で据え置かれた（4ヶ月連続）。C I一致指数は2ヶ月連続の低下だが、基調判断の下方修正にはまだかなりの距離がある。当面、「改善」判断が続くだろう。なお、「改善」の定義は「景気拡張の可能性が高いことを示す」であり、景気が回復基調にあることがC I一致指数からも確認されていることになる。



(出所)内閣府「景気動向指数」

○ C I一致指数の採用系列が10系列 → 9系列に

これまでC I一致指数の採用系列の一つだった「中小企業出荷指数（製造業）」が作成休止になったことを受け、今回の公表分から、中小企業出荷指数を除外してC I一致指数が作成されることになった。つまり、一致指数の採用系列が、これまでの10系列から9系列に減少している。

新旧の指数を比較すると、80年代や90年代では水準に多少差が確認できるが、少なくともここ10年程度については、ほとんど動きは変わらない。景気の山谷への対応性についても問題ないようだ。景気判断等への影響はないと考えてよいだろう。

